

【松山ケンイチさんインタビュー / プロフィール】

Q1:CM 撮影を終えての感想をお願いします。

A1:前回の CM では、お家の方、つまり ALSOK を導入されている方へのインタビューという設定ですが、今回はワンちゃんとの共演でした。実際には男の子が番犬役を演じていて、その子と一緒にすべてのシーンを撮影したのですが、撮影中はとても不思議な感覚がありました。
ワンちゃんの視点で見たお父さんやお母さんへの心配事や思いが、番犬の言葉として次々に出てきて、「こんなふうな家族のことを考えているんだな」と感じる場面が多く、とてもユニークで面白い撮影だったと思います。

Q2:特にこだわった部分や難しかった部分はありますか？

A2:目の前にいるのはかわいらしい男の子なのですが、設定としては「これまでずっと飼い主を守り続けてきた番犬」です。人とワンちゃんでは価値観や考え方が違うので、どこまで理解し合えるのか、正直分からない部分もありました。ただ、セリフがとても面白くて、「ワンちゃんならこうだろう」と決めつけるのではなく、対等に“家を守ること”について話すという意識で演じました。結果として、自然なやり取りができたのではないかと思いますし、完成した CM を見るのがとても楽しみです。

Q3:CM で特に注目してほしいポイントを教えてください。

A3:これまで飼い主を守り続けてきた番犬の思いや、家族を大切に思う気持ちを、インタビューを通して引き出しています。ぜひ、そんな番犬の気持ちに注目してご覧いただきたいです。また、ALSOK も番犬と同じように、皆さんの「安全・安心」を守る存在であることが、この CM を通して伝わればうれしいですね。

Q4:ALSOK 2 年目における思いを教えてください。

A4:ALSOK に携わって 2 年目になりますが、あらためて「守る」という言葉の深さを感じています。
単に何かを防ぐということではなく、その先にある穏やかな日常を支えることが、本当の意味での“守る”ことなのだと思います。
誰かに守られているからこそ、人は自分のやりたいことに没頭できる。この 2 年目は、目には見えないけれど確かにそこにある「安心」を、僕自身の佇まいを通して、より力強く届けていきたいと考えています。

Q5:松山さんが普段“安心感”を感じる瞬間を教えてください。

A5:毎日いろいろなミッションのようなものがありますが、それをすべてやり終えたときに、ほっとした安心感があります。そのあとは自分の時間になるので、そこが一番落ち着く瞬間ですね。
役によって求められることはさまざま、最近ではケーキ職人や裁判官、寿司職人など、いろいろな役を演じました。寿司職人なら、寿司を握るだけでなく魚を捌くことも必要ですし、学ぶことが本当に多い。そうした一日のミッションをきちんと終えられたときに、いちばん安心する瞬間です。

Q6:松山さんが最近ハマっていることを教えてください。

A6:ここ数年、自分で物を作ることにハマっています。田舎にいるときは、車庫で木材を加工していろいろなものを作っていますし、いわゆる DIY ですね。東京で撮影しているときも、合間に DIY ができる場所を見つけて、スタッフの皆さんと「ああだこうだ」と言いながら物作りをしています。今はそれが一番の楽しみです。

Q7:今後、チャレンジしたいことがあれば教えてください。

A7:今年は厄年なのですが、僕はそれを“役の年”、つまり「役年」だと思っています。俳優として、できるだけ多く現場に行き、役と向き合いたいですね。忙しい日々になると思いますが、風邪をひかないように心身の健康に気をつけながら、今年と後厄の来年をしっかりと走り抜けていきたいと思っています。

【出演者プロフィール】

●松山 ケンイチさん

1985年3月5日生まれ、青森県出身。

2002年 俳優デビュー

2006年 映画「デスノート」でブレイク

2010年 「ノルウェイの森」

2012年 大河ドラマ「平清盛」

2016年 「聖の青春」

2021年 「BLUE/ブルー」

2023年 「ロストケア」、大河ドラマ「どうする家康」、
TBS「100万回言えばよかった」

2024年 連続テレビ小説「虎に翼」

2025年 TBS「クジャクのダンス、誰が見た?」、WOWOW「おい、太宰」、

2026年 NHK「テミスの不確かな法廷」、TBS「リブート」、NHK「お別れホスピタル2」、
TBS「時すでにおスシ!？」

